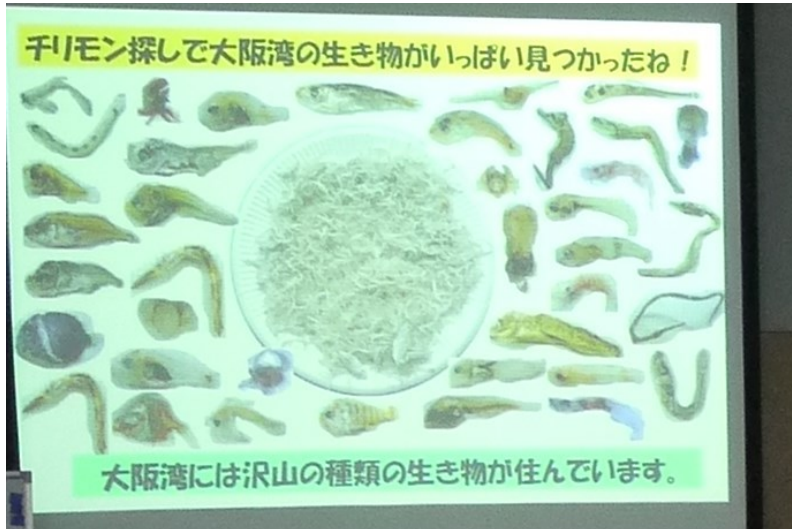


チリメンモンスターを探そう



大阪湾は、漁業資源が豊かな海です。

そこで行われている、チリメンジャコの漁。

私たちが口に入れているのは「カタクチイワシ」の稚魚ですが、実際にその漁をした網には、大阪湾の様々な生き物の稚魚が入っています。

店頭に並ぶときには、そういった雑魚は取り除かれています。でも、それを調べると、大

阪湾に、色々な生き物が暮らしているということがわかり、豊かな自然を大切にという気持ちにつながります。

そこで、チリメンジャコの中から、不思議な生き物、珍しい生き物を探して、大阪湾を探検しましょう。

チリメンジャコは、直接、漁師さんから買ってきます。

その中には、色々な生き物が混じっています。

また、魚の多くは、成魚と稚魚では形が大きく異なります。

そこも不思議なところですので、よく観察しましょう。



サバフグ



フグのなかま



カレイのなかま



メイタガレイ



タコのなかま



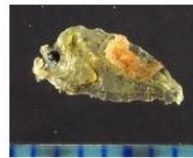
タコのなかま



ガンソウドラメのなかま



アラメガレイのなかま



ドラメのなかま



タコのなかま



タコのなかま



講師は大阪自然環境保全協会のスタッフです。ちりモン探しに必要な、顕微鏡、虫眼鏡、ピンセットなどの道具は全て持ち込みます。
参加人数や会場の広さに合わせて、スタッフが飾り付け、道具の配置などを行います。



おとなむけに、チリメンモンスターのポイントをお知らせします。

こどもたちに説明する内容とほぼ同じ内容で、図や表を使って説明します。



ということで、実際にやってみます。
こどもも後からちりモン探しをしますが、大人も楽しめるので、その楽しみを先取り。
簡単に見つかる時もあれば、なかなか見つからない時も。あきらめしないで、しっかり探しましょう。



こどもたちの時間がやってきました。
講師が、先ほど大人の皆さんにしたように、チリメンモンスターについて、説明します。
そして、探し方のポイントを伝えます。
講師だけでなく、おとなも一緒にこどもたちに、楽しみ方を伝えられるので、こどもたちも、ちりモン探しに熱が入ります。



小さいお子さんには、保護者の励ましがが必要です。
珍しい生き物を探しだしたら、チリモン図鑑をたよりに、何という名前の生きものか、書き留めていきます。
わからない時はスタッフが一緒に調べます。



最後は、発表会。

誰が、どんな珍しい物を見つけたのでしょうか。

「この魚、見つけた人！」

講師がそれぞれの生きものについて説明します。

一番珍しいのは「たつのおとしご」。

40人くらいの参加者の場合、一人が見つけられるかどうかなので、うまく見つけた人は宝物にしてください。



最後にまとめをして、「めずらしいもんみつけた？」と、講師からも声かけをして、プログラムを終わります。